

## 首里城扁額製作検討委員会

# 第3回 検討委員会

2022年3月8日（火）14:00-17:00

### 【資料3】髹漆・加飾の製作方針

- 3-1.黄色塗
- 3-2.墨ほくり帰し塗
- 3-3.地板内側縁取り
- 3-4.金薄磨
- 3-5.落款印・皇帝銘
- 3-6.御額持の概要

## 3-1.黄色塗

資料3

### (1) 地板の黄色塗

尚家文書の記述を踏まえ、地板は黄色塗の方向で進める。

往時は天然顔料の石黄が用いられていたが、ヒ素が含まれるため現在は使用禁止となっている。そのため今回製作では人工顔料を代用し、今後は製作段階で試作して色味を調整していく。

往時の顔料ではくすみのある黄色になると考えられる。

### 尚家文書（読み下し文）

・附、鏡黄色塗、御字金薄磨、御印朱塗、鏡四方青ぬり、ヒ五分、朱塗ヒ壺寸五分、縁雲龍彫すかニ而金薄磨、縁側四方真ぬり、御額後墨ほくり帰シ塗調候也

### 近年の研究・専門家の考察

・鏡は「黄色塗」で、黄色顔料を使用した黄色漆塗装。一方、「黄塗」は黄色顔料を使用しない茶系黄色の漆塗装。「御冠船之時御道具図」でも、皇帝関係道具は「黄色塗」、ほかの官吏の道具や小道具は「黄塗」で区別している。

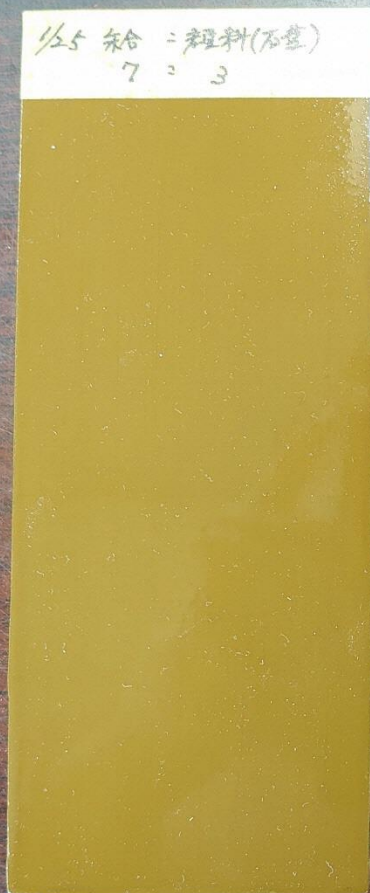
## 3-1.黄色塗

資料3

### (2) 黄色塗の試作

尚家文書の記述にある地板の黄色塗について、往時の色材を想定し、石黄を粉碎して漆に混ぜた色見本を作成した。続いて色見本に倣い、今日的に使用可能な色材（レーキ顔料）を用いて、黄色塗の塗料を試作した。製作段階でも同様の進め方で継続検討する。

石黄に漆を混ぜた色見本  
(2022年1月25日作成)  
まだ発色が不完全



色見本に倣って作成した  
黄色塗の塗料  
(2022年1月25日作成)  
黄土色に近い



## 3-2.墨ほくり帰し塗

資料3

### (1) 扁額裏面の墨ほくり帰し塗

尚家文書に、扁額の裏面は墨ほくり帰し塗と記載されており、近年の研究や専門家の考察を参考に、製作段階で継続検討を進める。

- ・ 前回製作時は扁額裏面を黒色の掻合塗りとしていた。
- ・ 尚家文書では「墨ほくり帰し塗り」と記載されている。
- ・ “墨ほくり帰し塗”は以下の考察のとおり進めることとする。当時、墨というと一般的には松煙墨である。

尚家文書（読み下し文p32下段）

- ・ 附、鏡黄色塗、御字金薄磨、御印朱塗、鏡四方青ぬり、ヒ五分、朱塗ヒ壱寸五分、縁雲龍彫すか二而金薄磨、縁側四方真ぬり、御額後墨ほくり帰シ塗調候也

近年の研究・専門家の考察

- ・ 額裏側は墨ほくり帰し塗とあり、墨下地の透漆塗装と想定。『貝摺奉行所文書』の朱塗沈金御棚に用いられた「ふくり帰塗」は渋下地に壱度越漆（透漆）を塗る技法である。

安里2006『貝摺奉行所関係文書のデータベース化』浦添市教育委員会2006

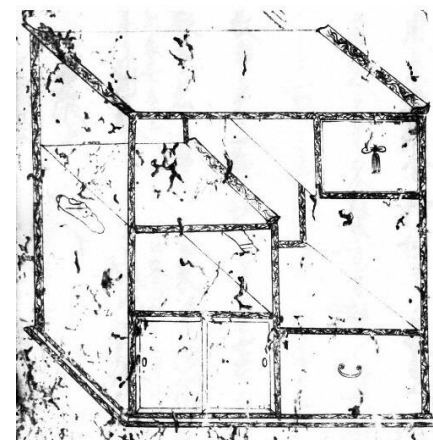
23冊4

朱塗沈金御棚

一 久米赤土	0.02	合	◎	代銭	1	文
一 渋	0.23	合	◎	代銭	46	文
一 上貝摺師	0.16	人	◎	作料銭	979	文
一 古葎物	3.41	匁	◎	代銭	43	文
一 菜種子油	0.02	合	◎	代銭	35	文
一 壱度越漆	0.68	匁	◎	代銭	493	文

但右黄塗ふくり帰塗二入◎

\*[九]百七拾九文、県史は七百七拾九文(779文)





### 3-3. 地板内側縁取り

資料3

#### (1) 地板の縁取りの配色

尚家文書の地板の縁取りの記述について、以下のとおり解釈した場合、次項のような色の並びになると検討した。

#### 尚家文書

- ①一同廿九日、御額惣程来枚原紙二次調、外四方五分完黒へり、鏡内四方五分完青へり、壹寸五分完赤へり、五分完黒へり彩分ケ、縁雲龍之絵様并くうちんかあ書調方相済候
- ②附、鏡黄色塗、御字金薄磨、御印朱塗、鏡四方青ぬり、ヒ五分、朱塗ヒ壹寸五分、縁雲龍彫すか二而金薄磨、縁側四方真ぬり、御額後墨ほくり帰シ塗調候也

#### 【記述の解釈（案）】

- ①は下図に関する記述で、地板から額縁にかけての色の説明と解釈。  
「外四方」＝額縁側の四方：黒へり5分  
「鏡内四方」＝鏡側の四方：青へり5分、赤へり1寸5分、黒へり5分
- ②は扁額仕立ての記述で、扁額を内側から外側にかけての色の並びと解釈。  
地板：黄色塗、御字金薄磨、御印朱塗  
鏡四方：青ぬり5分、朱塗1寸5分、  
縁：雲龍彫すか二而金薄磨



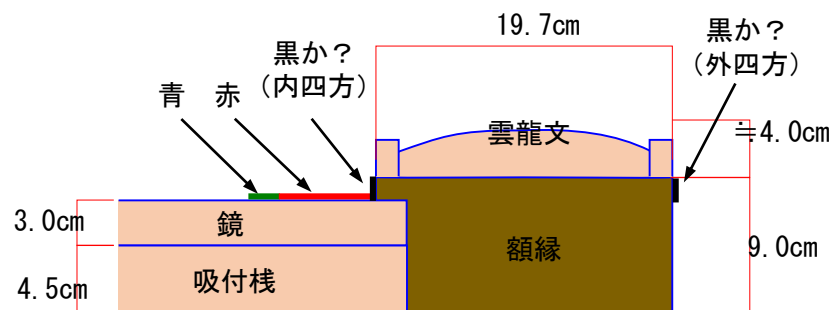
- ②の記述に基づき、地板の縁取りを内側から青5分、赤（朱）1寸5分とする。  
①は下図に関する情報で、外四方の黒と、鏡内四方の黒についての解釈は引き続き検討が必要。

### 3-3. 地板内側縁取り

資料3

#### (2) 尚家文書に基づく地板の縁取りイメージ

※正面から見ると、色の並びは右図と同じとなる。



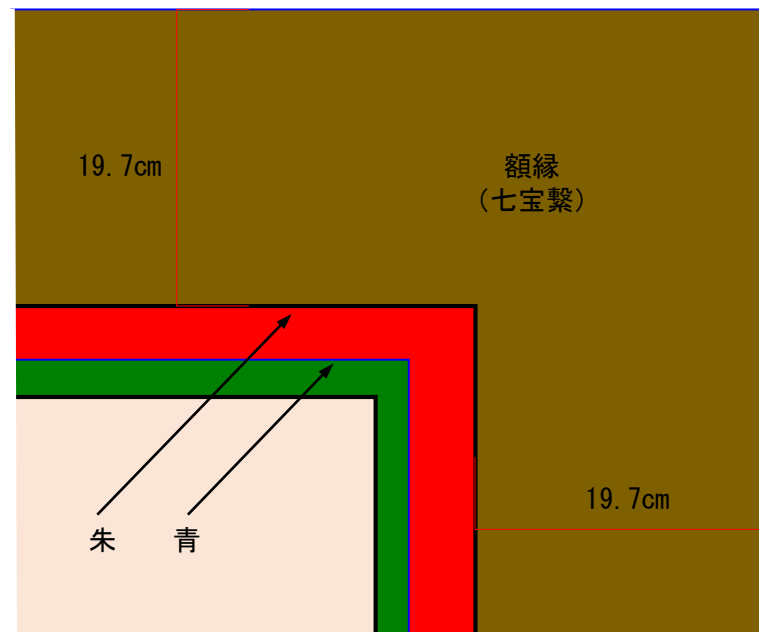
断面図による色の並び

外四方：黒へり5分

鏡内四方：赤へり1寸5分、青へり5分、黒へり5分

#### 【色合い想定】

- 青塗：尚家文書に記述のある「青塗」について、近年の研究などを参考に、石黄と藍を混ぜたものを見本として、代替色材により色を作ることが考えられ、製作段階で試作して色味を検討していく。
- 朱塗：赤口朱で検討し、色味は試作で確認する。



正面から見た色の並び

鏡四方：朱塗1寸5分、青ぬり5分

## 3-4.金薄磨

資料3

### (1) 文字、額縁彫刻の金薄磨

尚家文書の情報を重視し、題字と額縁彫刻は金薄磨の方向で進める。

貝摺奉行所文書の朱漆唐台の記述に、赤金薄（赤味のある金箔）というのが読み取れる。金95%以上（3号箔）から赤金箔に含まれ、時代性を考慮すると2号箔または3号箔が用いられたと想定される。製作段階で試作を重ねて色味を調整していく。

### 尚家文書（読み下し文）

- ・附、鏡黄色塗、御字金薄磨、御印朱塗、鏡四方青ぬり、ヒ五分、朱塗ヒ壱寸五分、縁雲龍彫すか二而金薄磨、縁側四方真ぬり、御額後墨ほくり帰シ塗調候也

### 近年の研究・専門家の考察

- ・額縁は、雲龍の透彫りに「金薄磨」とあり、彫刻面に金箔を貼り、上から透漆を塗る技法と思われる。

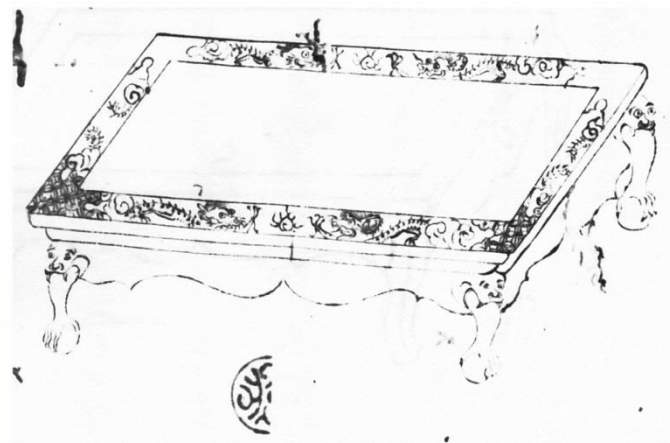
安里2006『貝摺奉行所関係文書のデータベース化』浦添市教育委員会2006

### 朱塗唐台

24冊11

一 和桐油	0.95	匁	◎
一 拵石黄	0.95	匁	◎
一 和三寸二分かく <u>赤金薄</u>	54.31	枚	◎
一 綿子	1.44	匁	◎
一 八度越漆	3.34	匁	◎
一 炭	4.28	合	◎
一 上貝摺師	5.23	人	◎
一 菜種子油	0.24	合	◎
一 はせを紙	2.20	枚	◎

但右崩薄二而金薄磨二入◎





## 3-4.金薄磨

資料3

(3) 地板が黄色塗の際の文字が金薄磨の見栄え

地板が黄色塗となるため、文字の金薄磨とのコントラストが確保されるよう、製作段階で試作を重ねて検討を行う。

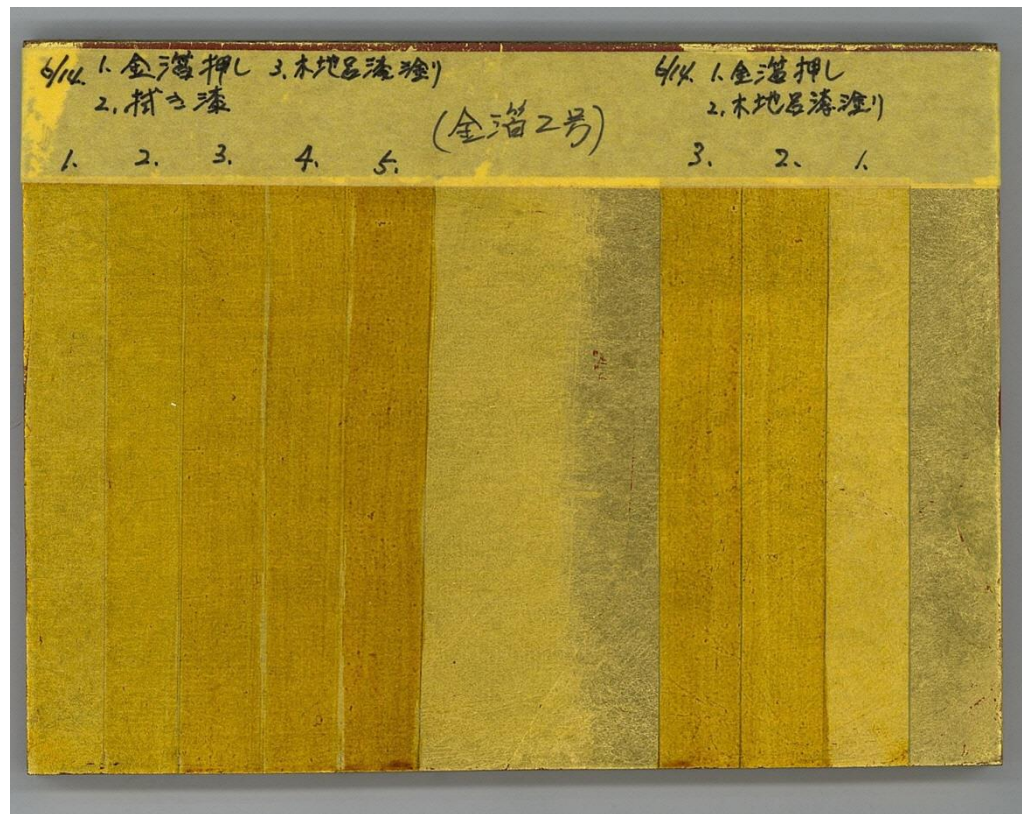


黄色塗（再掲）

左：石黄に漆を混ぜた色見本、

右：色見本に倣って作成した黄色塗

2022年1月25日作成



金薄磨（左：拭き、中央：塗り無し、右：塗り）  
「琉球王国文化遺産集積・再興事業」漆芸分野の  
検討資料（平成30年作成）より

※手板に記載される数字は塗り重ね回数を示す。



## 3-5.落款印・皇帝銘

資料3

### (1) 落款印・皇帝銘等の表現の検討

いくつかの方法が考えられるが、扁額事例を参考に、製作段階で試作を行い、継続検討することとする。

#### ① 髹漆のみで表現する方法

- ・ 朱漆で筆書きする。

#### ② 彫刻または加飾で表現する方法

- ・ 薄板で文字を形成し地板に貼り付ける。
- ・ 堆錦で文字を形成し地板に貼り付ける。

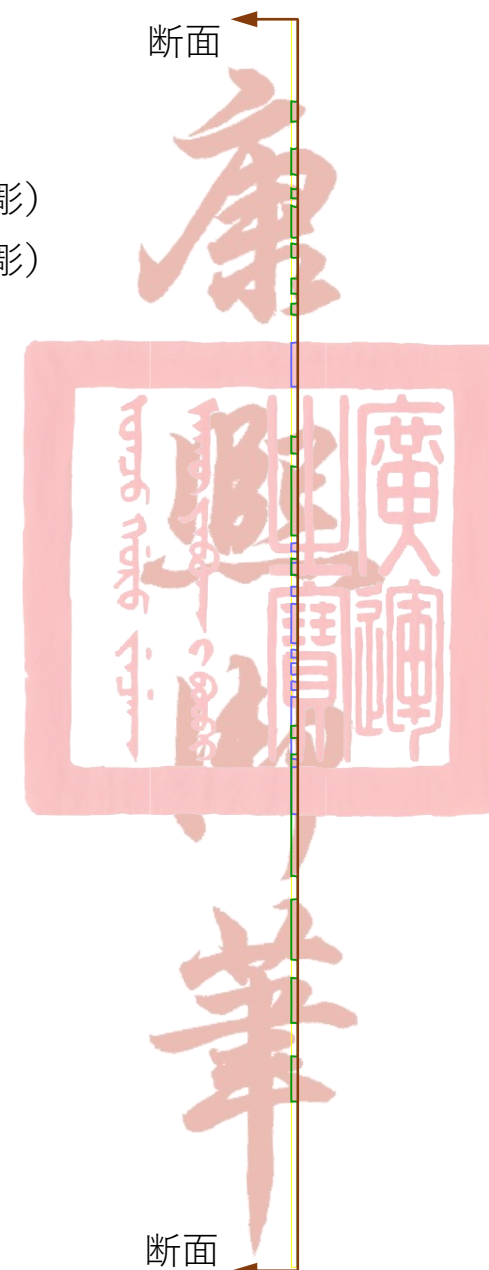
#### ③ 彫刻 + 髹漆・加飾で表現する方法

- ・ 落款印・皇帝銘等の中を彫り下げ漆または堆錦を入れる。
- ・ 落款印・皇帝銘等の周りを彫り下げ漆塗りで仕上げる。

凡例

青：落款印断面（浮彫）

緑：皇帝銘断面（浮彫）



## 3-6.御額持の概要

資料3

### (1) 尚家文書に記述される御額持の概要

「御額持」とは、扁額の底辺を支える受け材と考えられる。2つ取り付けられていたこと、寸法と材料について記載されている。

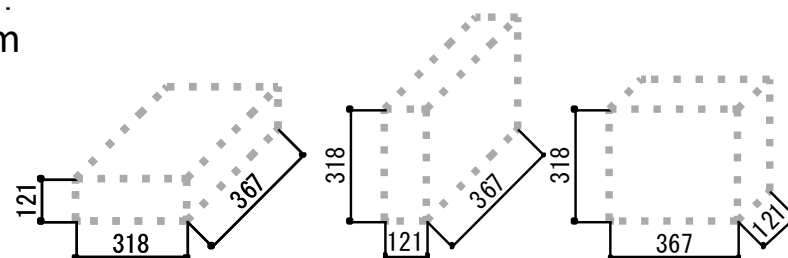
尚家文書（読み下し文）

- ・一御額持式ツ 但、長壺尺貳寸、横壺尺五分、ア四寸完(宛)櫛木調

### (2) 御額持の寸法、材料

尚家文書から読み取れる「御額持」の大きさと材料は以下のとおり。ただし文書の記述だけでは、正面方向が読み取れない。

- 長壺尺貳寸：  
「長」は部位のうち最も長い部分の寸法→長さ約367mm
- 横壺尺五分：  
「横」は2番目に用いられ、1番目に対し直行方向の寸法→横約318mm
- ア四寸：  
「ア」は厚さ→厚さ約121mm
- 櫛木調：金属製ではなくチャーギ（イヌマキ）製であった。



御額持の立体イメージ

### (3) 御額持の装飾

尚家文書には御額持の装飾に関する情報がない。そのため、扁額事例調査を継続し、御額持の装飾について継続検討していく（具体化が困難な場合、無装飾とすることも視野に入れる）。